**【宮津市】
校務DX計画**

１　趣旨

　当市では、令和2年度から児童生徒に学習用端末を配布し、学習用ソフトも導入しながら、GIGAスクール構想の実現に向けて取り組んでいる。

　校務系端末についても、グループウェアを利用して、学校間、市教委と学校間の連絡等に活用しており、保護者との連絡においても、専用のツールを使用している。しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められている。そのため、令和7年1月から校務支援システムを導入し、今後、教職員の働き方改革を推進していく。

**２．宮津市における課題と取組**

（１）校務系・学習系ネットワークの統合

　当市では教職員の働き方において、その柔軟性や安全性について課題が残る。その課題を解決し、教職員一人一人の事情に合わせた柔軟かつ安全な働き方を可能とするため、アクセス制御によるセキュリティ対策を十分に講じた上で、学校・市情報管理担当・関係業者と連携を図りながら、校務系・学習系ネットワークへ接続可能な環境の整備に向けた調査研究を進める。

（２）校務支援システムについて

教職員の不必要な手入力作業等により、作業が効率的でなかったため、校務支援システムを令和7年1月に導入した。当該システムは、名簿、出席簿、成績処理、通知表、指導要録、保険業務等を連動して行えるため、教職員の作業効率化を図ることができる。

　校務の軽減・効率化により、教職員の時間を確保でき、出欠情報・学習情報・保健情報等をシステム上に蓄積し、教職員で情報共有することも可能となるため、子供たちへの質の高い指導が推進され、学力向上に繋がることが期待される。

（３）次世代の校務デジタル化に向けた各種ツールの活用

　各種ツールから収集したデータについて、可視化等を行い校務の効率化を進める余地があり、授業の質の改善に紐づけることが出来るかと考えられる。

　具体的には、授業支援ソフトやデジタルドリルで蓄積された学習系データなど、児童生徒の出欠及び成績情報等のデータなど、様々なデータを自動的に収集・分析・加工して簡潔にまとめ、集計値や表、グラフなどで可視化するための管理ツールの導入を考えている。また、校務の効率化という観点では、生成AIの利用も考えられるため、活用方法等の検討を進めていく。

　なお、現状においては、教職員のICT活用能力に個人差があり、上手く活用できていないケースも見られることから、全ての教職員が効果的に活用できるよう、教職員一人一人のICT 活用能力に応じた個別指導やICT研修の実施回数を増やすなどの対応を考えている。

（４）　FAX・押印の見直し

　当市では、校務系端末にてグループウェアを利用しており、学校間、市教委と学校間の連絡等に活用しており、保護者との連絡においても、専用のツールを使用している。

　しかし、いまだに公印押印の文書も見られ、今後においては廃止に向けて調整が必要と思われる。